

# 名蔵湾保護水面管理事業調査（要約）

海老沢明彦・杉山昭博

本調査結果についてはすでに「昭和63年度保護水面管理事業調査報告書」（沖水試資料No.108）で報告したので、ここでは調査内容と結果を要約して報告する。

## 1. 目的及び内容

多くの有用水産動物類の保育場である海草藻場を保全し植物の繁茂、底生動物と葉上動物の分布、アイゴ類幼魚の藻場における成長、周辺海域における定置網による漁獲量、既設人工魚礁の魚類等の蝸集状況及び水質の各調査を実施し藻場における生態的メカニズムを把握することに努めた。

## 2. 要 約

(1) 藻場の季節変化を把握するため定点で海草の生育範囲と密度を調べた。生育範囲に大きな変動はなく、密度は7月に最高で12月に最低となった。

(2) 定生動物調査を1988年9月、及び1989年1月に行った。出現動物総量は1月が多く60g-300g/㎡となった。

(3) 葉上動物調査を5月から1月までに5回行った。各定点ともEraantia, Gammaridae、Macruraが平均して多く出現した。

(4) アイゴ類幼魚の藻場への来遊を6月から9月にかけて調査した。シモフリアイゴは2回来遊したが後期来遊群は前期群に比べ成長が著しく遅かった。その他アミアイゴ、ヒメアイゴ、ゴマアイゴが採集されたが、採集数が少なく成長解析は行えなかった。

(5) 名蔵湾における1988年の定置網漁獲量を集計した。イスズミ類冬季群、ギンガメアジ類、ゴマアイゴ春期群、ハリセンボン類、コブシメ類の漁獲が増加し、クロサギ類は減少した。

(6) 人工魚礁調査を8月に行い17種が確認された。ロクセンフエダイ、ヨスジフエダイ及びミツボシクロズメが多く観察された。

(7) 水質調査を5月、9月、12月に行った。調査項目は水温、pH、塩分濃度、DO、COD、 $PO_4 - P$ 、 $NH_4 - N$ 、 $NO_2 - N$ 、 $NO_3 - N$ で、分析結果から特に異常と思われる値はでなかった。